

# 外出先から電子メールを読む時の無駄を無くすには

渡辺 健次

理工学部知能情報システム学科

watanabe@is.saga-u.ac.jp

## 1 はじめに

筆者が本学理工学部物理学科の大学院生の頃、九大大型計算機センターで BITNET の運用がはじまりました。カナ漢字変換を使って作成して端末から送信した「手紙」が、非常に短い時間で相手に届けられる電子メールは、字が下手で漢字を知らないが故に筆不精だった筆者にとって、魔法の道具のように思えたことを今でも憶えています。もちろん、あっと言う間に魅力に取りつかれたのは、書くまでもありません。

その後、UUCP な時代を経て、いわゆるインターネットの電子メールを使い始めると、筆者にとって電子メールはなくてはならないツールとなりました。しかしそうすると「いつでも・どこでも」メールを読む必要に迫られることとなります。特にここ数年はとて出張が多いので、出張先からメールを読まなければ、公私ともに困ったこととなります。そのため、最近は常にパソコンを携帯していて、出先でメールを読み書きしています。いわゆるモバイルをしているわけです。

ところが、電子メール中心の生活になるにつれて、毎日大量に届けられるメールを如何に効率良く処理するか、という課題に取り組む必要がでてきました。例えば、メーリングリストは重要な情報源ですが、S/N 比が必ずしも良いわけではありません。要するに読む優先度が低いわけで、急いで読む必要はありません。出張から帰ってから、時間がある時に処理すれば良いわけです。

最近のメールクライアントでは、適当なルールに従って、受信したメールを仕分ける機能を持っているものがあります。「すぐ読まなくても差し支えないメール」を適当なフォルダに自動的に仕分けるルールを記述することで、重要なメールだけを自動的にピックアップして読むことができます。

ところがこの方法は、メールを POP でパソコンに取り込んだ後で仕分けるので、結局メールサーバに届いている全てのメールを POP で取り込むわけです。「すぐ読まなくても差し支えないメール」までも外出先から POP で取り込むのは、時間と通信料金を無駄に消

費していると思えます。取り込んだメールの From: が MAILER-DAEMON だったりすると、折角通話料を払ったのに、と悲しくなってしまう。出張先でモバイルしている時は、必要なメールだけを取り込むようにしたいものです。

そのような問題意識を持ちながら、いろいろ試行錯誤しているわけです。そこで筆者は、メールサーバ側でメールを仕分けておいて、モバイル先では必要があるメールだけが取り込めるようにしています。具体的には、図 1 に示すように、通常のメールボックス (アカウント 1) とは別に、POP で取り込むための専用のメールボックス (アカウント 2) を用意していて、届いたメールから「読む必要のあるメール」のみをそちらに自動的にコピーしています。出張先ではアカウント 2 を POP することで、「読む必要のあるメール」のみを読むことができるわけです。

本稿では、筆者が行っている「メールサーバ側でメールを仕分ける」方法について、解説します。

なお、筆者の場合、情報処理センターのメールサーバは使っておらず、自前で PC UNIX を使ってメールサーバを立てています。本稿で解説する内容は、自前のメールサーバでの設定であり、これがそのまま情報処理センターで使えるわけでは (たぶん) ないことに、注意してください。もし筆者の方法に興味を持たれた場合は、情報処理センターでも使えるように陳情してください。

## 2 何をもって「読みたいメール」と判断するのか

既に述べたように、移動先でも「読みたいメール」と、「すぐ読まなくても差し支えないメール」をメールサーバ側で区別して、アカウント 2 のメールボックスに「読みたいメール」のみをコピーしています。ここでまず考えなければいけないのは、「読みたいメール」と「すぐ読まなくても差し支えないメール」とは何か、ということです。

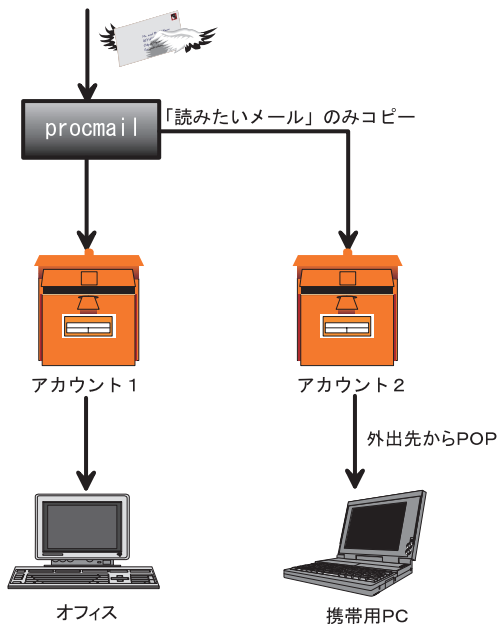


図 1: 処理の流れ

筆者にとって、どのようなメールが「読みたいメール」であるかを考えると、次のようになります。

- To: が自分宛のメール
- Cc: が自分宛のメール
- 重要なメーリングリスト

つまり、これらの条件にマッチするメールを、適当なツールを利用して、2 つ目のメールボックス (アカウント 2) にコピーすればよいことになります。

ここで、「読みたいメール」を定義しているこの方法は、ホワイトリスト方式であると言えます。もちろん、反対に「すぐ読まなくても差し支えないメール」メールを定義するブラックリスト方式も採ることもできますので、どちらが簡単なのかを考えてみるのも良いでしょう。

### 3 procmail の導入

筆者はサーバ側でメールを振り分けるために、procmail というツールを利用しています。procmail はオランダの S.R. van den Berg 氏が開発されているツールで、インターネットでフリーで配付されています。

procmail は、「メールのヘッダの情報に基づいて、アクションを起こす」ことができます。procmail は次の機能を持っています。

- 受信したメールを仕分ける機能

- 受信したメールを自動的に転送する機能
- メーリングリストを運営する機能
- 受信したメールに応じて適当なプログラムを起動する機能

procmail は anonymous ftp で入手することができますが、FreeBSD の packages にも含まれていますので、それをインストールするのが便利でしょう。ちなみに、FreeBSD 3.4-RELEASE の packages には、procmail-3.13.1.tgz が含まれています。packages のインストールは、次のようにして行います。

```
# pkg_add procmail-3.13.1.tgz ←
```

### 4 ルールの記述

前章で述べたように、procmail はメールのヘッダの情報に基づいてアクションを起こすプログラムです。どのヘッダ情報に基づいてどうアクションを起こすか、というルールは、ホームディレクトリに置く .procmailrc というファイルに記述します。 .procmailrc については、オンラインマニュアルに詳しい説明 (ただし英語) があります。

ここでは、アカウント 1 が watanabe、アカウント 2 が wata2 という例で解説します。図 1 の処理を行うために、図 2 に示すルールを記述しました。procmail のルールは :0 の行から定義が始まります。このルールでは、3 つのルールを記述しています。

1. ヘッダの To: が watanabe@\*.saga-u.ac.jp になっているメールにマッチし、メールのコピーを wata2 というアカウントに転送し、さらに通常のメールボックス (.procmailrc では \$ORGMAIL がそれを意味します) に書き込む。
2. ヘッダの Cc: が watanabe@\*.saga-u.ac.jp になっているメールにマッチし、メールのコピーを wata2 というアカウントに転送し、さらに通常のメールボックス (\$ORGMAIL) に書き込む。
3. ヘッダの Reply-To: が xxx@is.saga-u.ac.jp になっているメールにマッチし、メールのコピーを wata2 というアカウントに転送し、さらに通常のメールボックス (\$ORGMAIL) に書き込む。

ヘッダを検索する条件は、正規表現で表現します。この正規表現は、UNIX の egrep コマンドと同じなので、詳しくは egrep のマニュアルを参照してください。

```
"|IFS=' ' && p=/usr/local/bin/procmail && test -f $p && exec $p -Yf- || exit 75 #USERNAME"
```

図 3: .forward の設定

```
:0
* ^To:.*watanabe@.*\.saga-u\.ac\.jp.*
{
    :0c
    ! wata2

    :0
    $ORGMAIL
}

:0
* ^Cc:.*watanabe@.*\.saga-u\.ac\.jp.*
{
    :0c
    ! wata2

    :0
    $ORGMAIL
}

:0
* ^Reply-To:.*xxx@is\.saga-u\.ac\.jp.*
{
    :0c
    ! wata2

    :0
    $ORGMAIL
}
```

図 2: 記述したルール

それぞれの条件に付いて、詳しく解説します。

(1) の条件では、「行頭が To: で始まっている行で、その行に watanabe@\*.saga-u.ac.jp という文字列が含まれている」という条件を満たすヘッダを持つメールがマッチします。なお、「watanabe@\*.saga-u.ac.jp」の \* はワイルドカードであり、任意の文字列とマッチします。ワイルドカードを使っているのは個人的な事情で、\* の部分に cc、is など、何種類かあることに対応するためです。(2) は対象のフィールドが Cc: になっているだけで、同じ意味になっています。

一方 (3) の条件では、ヘッダ中の Reply-To: ヘッダを調べて、xxx@is.saga-u.ac.jp というアドレスがあればマッチします。多くのメーリングリストでは、Reply-To: ヘッダに返事を書くアドレス (メーリングリストのアドレスであることが多い) が指定されているので、それを利用しています。

これらの 3 つの条件にマッチしないメールは、通常のメールの処理に従い、メールボックス (すなわちアカウント 1 のメールボックス) に書き込まれます。この「条件にマッチしないメール」が「すぐ読まなくても差し支えないメール」になります。

## 5 .forward の設定

作成したルールに従って、届いたメールを自動的に処理するためには、ホームディレクトリに .forward ファイルを作成し、そこで procmail を起動するように設定します。.forward の例を、図 3 に示します。

この設定を施した後、届いたメールが procmail によって自動的に処理されるようになります。

携帯パソコンのメールツールで、メールサーバのアカウントをアカウント 2 に設定することで、仕分けられたメールのみを POP で取り込めるようになります。筆者はノート PC では Becky! を使っていますが、Becky! での設定例を図 4 に示します。

## 6 問題点

筆者は 2 年ほど前から procmail を導入して、本稿で紹介した方法でメールサーバ側でメールを仕分けて、外出先では必要なメールだけを取り込むようにしていま

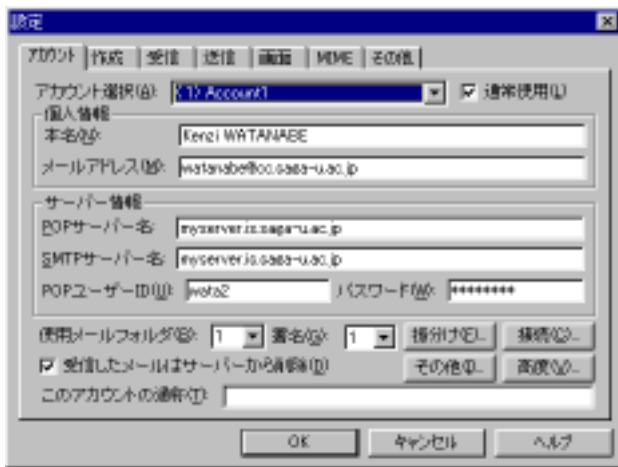


図 4: Becky! の設定

す。これは想像以上に効果的であり、単に不要なメールを取り込まなくなっただけでなく、メールのフィルターとしても重宝しています。

しかしながら、いくつか問題点もあります。

まず、外出先で既に読んだメールを、オフィスで再び読む手間がかかる問題があります。なぜならば、アカウント 2 に転送されるメールは「コピー」であり、オリジナルのメールがアカウント 1 に届いているからです。要は手間の問題ですが、筆者は「受け取ったメールはオフィスのコンピュータに整理保存する」ことにしていますので、2 度読む手間もやむ無し、と割り切っています。その代り、携帯 PC に取り込んだメールは、必要が無ければ消去しています。

また、出張していない日もメールは自動的にコピーされるため、適当な頻度でアカウント 2 に溜ったメールを吸い上げる必要があります。これをしておかないと、次の出張先で、大量のメールを取り込むはめになり、悲しい思いをします。筆者の場合は、自宅のパソコンに吸い上げて、即座に消去しています。

さらに、頻度は少ないものの、.procmailrc の保守もそれなりに面倒さがあります。筆者の場合、二度の転勤、一度の配置変えの結果、これまでいくつものメールアドレスを使ってきました。そのため、いろいろなメールアドレス宛にメールが送られてくるので、結局全てのアドレスについて、ルールを書いています。また、新たに「重要なメーリングリスト」が加わった場合、そのメーリングリスト用のルールを追加しなくてはなりません。

## 7 おわりに

電子メールを使い始めたころ、嬉しくなって「メールでいつでも連絡をください」と言いまわっていました。ところが段々メールの量が増えてきて、毎日何百通と送られてくるようになると、読むだけでも大変です。出張から帰って、数日分で千通に迫ろうかという量のメールに目を通すだけで、一日が暮れてしまいます。

携帯パソコンを使ったモバイルは、外出先で日常と同じようにメールが利用できるのも、とても便利です。筆者の場合、本稿で紹介した設定を施すことで、今の所は効率の良いモバイル環境を実現しています。必要なメールだけだと、案外少ないものですね。

ところが最近、新たな問題意識を持っています。それは「PC を持ち歩かずにメールを読むにはどうすれば良いか」というものです。

皆さんはどのような環境があると良いとお思いでしょうか？